

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 「物語の感想をまとめよう」

教材名 「ちいちゃんのかげおくり」

2 単元の目標

- ・場面の移り変わりに注意しながら読み、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読むことができる。
- ・場面をまとめたり、文を引用したりして感想を書くことができる。
- ・感想の内容や書き方を比較し、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○言葉や表現に着目して読み、進んで感想を書いている。	○場面の移り変わりに注意し、それぞれの場面の様子を想像しながら読んでいる。 ○感想が文章のどの叙述に基づいているのか、該当する本文を引用しながら表現している。 ○物語を読んで感想をもち、一人一人の感じ方の違いに気づいている。	○文章中で使われている表現に注目し、表現するための語句を増やしている。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

「ちいちゃんのかげおくり」の主人公は幼い女の子であり家族との関わりを中心に書かれていることから、この時期の児童にとって感情移入しやすい作品である。全く経験のない、戦争時代の作品を自分自身の目で見つめ、感じたことを文章にまとめることが本単元で身につけさせたい力である。

ちいちゃんに寄り添いながら読みすすめることで、戦争の悲惨さや理不尽さを認識し、平和を希求する強い思いを育みたい。

(2) 教材文について

本教材は、幼い女の子を主人公に、戦争に巻き込まれた家族の姿を描いた物語であり、子供達にとっては教科書で、出会う初めての戦争文学作品である。空襲によってひとりぼっちになり幼い命を奪われたちいちゃんを通して、家族が一緒にいることの幸せや平和の大切さを描いた作品である。

本文は5つの場面に分けられ、時間の経過に従って主人公をめぐる出来事がはっきりしていて場面設定が明確である。また人物の心情を想像する手がかりとなる言葉も多く使われており、物語の展開に沿って主人公に寄り添いながら読み進めることができる作品である。

5 研究主題に迫るために（学習活動の工夫）

(1) 4つの思考の型を取り入れた言語活動

(2) 「物語文を読む10の観点」の活用

(3) 音読の工夫

- ・三読法における読みの機会を設定した。あらすじをつかむための読み、思考を深めるための読み、学習によって深まった理解を表現するための読みの機会を設定した。

(4) 板書の工夫・学習環境の工夫

- ・ 学習の振り返りができるように、模造紙に書いて教室に掲示し、以前の学習内容を振り返ることができるようにする。
- ・ 場面の様子が分かるように、写真や挿絵を提示する。

(5) 発問の工夫

- ・ 児童が叙述に即して想像できるように視点を絞って発問する。

(6) ワークシートの工夫

- ・ 一単位時間ごとにワークシートを用意し、考える場面を限定することで、児童が課題に取り組みやすくなるようにする。また、サイドラインを引くための本文と自分の考えを書き込むスペースを一体化させることで、叙述に基づいて自分の考えがもてるようにする。

6 学習指導計画（全11時間）

次	時	ねらい	主な学習活動と4つの思考	評価規準・方法
1	1	全文を読んで初発の感想を交流する。	・ 題名から想像することや、戦争について知っていることを発表する。 ・ 題名から話の内容や人物像を想像したり、模読を聞いたりして、心に残った場面を中心に感想を書き、発表する。	【関】 物語を想像しながら、心に残ったことを感想に書いている。 （発表・ワークシート）
	2	物語のあらすじをつかむ。	物語のあらすじをとらえよう ・ 10の観点に基づき、物語の構成を捉える。	【読】 物語のあらすじをつかみ、ワークにまとめている。（ワークシート）
2	3	家族みんなでかげおくりをするちいちゃんの気持ちや登場人物の心情を考える。	かげおくりをする家族やちいちゃんの気持ちを考えよう （第一課題） ・ かげおくりをする家族やちいちゃんの気持ちがわかる文にサイドラインを引く。【選択】 お母さんの不安な気持ちが表れている文はどれだろう （第二課題） ・ サイドラインが引かれている中から、お母さんの不安な気持ちが深く表れている文を探し、どんな気持ちでぽつんと言ったのか考える。【選択・類推】 （言葉の力）ぽつんといった。	【読】 会話や動作を表す言葉などをもとに、登場人物の気持ちを読み取ることができる。（発表・ワークシート）
	4 （本時）	町の様子から、ちいちゃんの気持ちを想像し、擬人法が臨場感・恐怖感を強めていることを理解する。	くうしゅうけいほうの鳴る町の様子からちいちゃんの気持ちを想像しよう （第一課題） ・ 町の様子が書かれている文にサイドラインを引き、ちいちゃんの気持ちを想像する。【選択・類推】 「ほのおのうずがおいけてきます」はどんな様子か考えよう （第二課題） ・ 「追いかけてくる火」の様子について話し合う。【類推】 （言葉の力）擬人法	【読】 擬人法に着目し、ちいちゃんの恐怖感を読み深めることができる。（発表・ワークシート）

	5	家族を待つち いちゃんの気持 ちを様子や会話 から読み取る。	<u>家族の帰りを待つちいちゃんの気持ちを想像しよう</u>（第一課題） ・家族の帰りを待つちいちゃんの気持ちが分かる文にサイドラインを引く。【選択】 <u>家族を待つちいちゃんの気持ちが表れているところはどれだろう</u>（第二課題） ・サイドラインが引かれている中から、家族を待つちいちゃんの気持ちが深く表れている部分を探し、家族の帰りを信じて待つちいちゃんの気持ちを読み取る。【選択・類推】 ・「深くうなずきました。」「また深くうなずきました。」 （言葉の力）繰り返しの表現	【読】繰り返しの表現に着目して、家族の帰りを信じて待つちいちゃんの気持ちを読み取ることができる。 （発表・ワークシート）
	6・7	かげおくりをする2つの場面を読み比べ、ちいちゃんが一人でしたかげおくりはどんなかげおくりだったか読み深める。	<u>第一場面と第四場面のかげおくりをくらべてみよう</u>（第一課題） ・第一場面と第四場面のかげおくりの様子を比べる。【比較】 ・「～とお父さんが<u>数えだしました。</u>」 ・「～というお父さん（お母さん）の<u>声が青い空からふってきました。</u>」 （言葉の力）声がふってきました。→死の暗示 <u>かげおくりをしたあとのちいちゃんの様子が分かる文はどこだろう</u>（第二課題） ・かげおくりをしたあとのちいちゃんの様子が分かる文にサイドラインを引き、ちいちゃんは怎么样了のか考える。【選択・類推】 （言葉の力）体がすうっとすきとおって空にすいこまれて→死の暗示	【読】叙述をもとに二つのかげおくりの同じところや違うところを見つけ比べている。 【読】場面と場面の関係について理解している。 （発表・ワークシート）
	8	ちいちゃんのない公園の場面があるのはなぜか考える。	<u>町の様子を読み取ろう</u>（第一課題） ・町の様子が分かる文にサイドラインを引く。【選択】 <u>平和になったことが分かる文はどこだろう</u>（第二課題） ・サイドラインを引いた文の中から平和になったことが特に表れている文を探し、「きらきら笑い声を上げて」の文について考える。 【選択・類推】 （言葉の力）「きらきら」…輝き、幸せ感、 ・前述の「ちいちゃんはきらきらわらいました。」と比べる。	【読】現在の平和な様子を読み取り、なぜ公園の場面があるのか考えをもつことができる。 （発表・ワークシート）
3	9・10	物語の感想をまとめる	<u>物語を読んで感想を書こう。</u> ・感想文の「はじめ」と「おわり」の書き方をしり、工夫して感想文を書く。 ・自分の感想を明確に表現するための言葉を選び、工夫して書くことができる。	【読】自分の考えが明確になるような文章の構成や書き方を理解している。（ワークシート）
	11	友達との考え方の違いや書き方の違いに気付く。	<u>感じたことを交流しよう</u> ・グループで感想を読み合い、友達の考えと自分の考えを比べる。	【読】友達との感想の違いに気付いている。 （発表）

7 本時の指導（4／11時）

（1）本時の目標

- ・「ほのおのうずが追いかけてきます。」という叙述に着目して、ちいちゃんが恐怖に包まれていることを読み深めることができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導 入	1 前時の振り返りをする。	○ちいちゃんの住む町の空は楽しいところではなく、とても怖いところになったことを確認する。	
	2 本時の課題を知る。		
	くうしゅうけいほうの鳴る町の様子から、ちいちゃんの気持ちを想ごうしよう（第一課題）		
展 開	3 ちいちゃんの気持ちを想像しながら第二場面を音読する。（黙読） ・町の様子が書かれている文にサイドラインを引く。【選択】 ・町の様子から、ちいちゃんの気持ちを想像する。【類推】→「こわい」 ・町の様子が書かれている文の中から、怖さが一番伝わる書き方がされている文はどこか考える。【選択】 →「ほのおのうずが追いかけてきます。」	○ワークシートの吹き出しに、ちいちゃんの気持ちを書かせる。	
	「ほのおのうずが追いかけてきます。」からどんな様子が伝わるだろうか（第二課題）		
	4 「追いかけてくる火」の様子について話し合う。【類推】 ・火に関する体験（キャンプファイヤー、花火）やニュース（火事）などの紹介をする。 ・「ほのおのうず」はどのようなものか確認をする。 ・「追いかけてくる火」の様子（熱さや速さなど）について話し合う。 ・「追いかける」は、生き物の様子を表す時に用いられる言葉であり、火を生き物に例えていることを知る。 ＜言葉の力＞ 人間でないものを人間にたとえる表現 →擬人法	○炎のうずのイメージがわくような写真を提示する。 ○叙述を基に想像させ、ワークシートに書かせてから、ペアで交流をさせる。 ○擬人法を使った表現と使っていない表現を比べ、擬人法を使うことによって臨場感・恐怖感を強めていることをおさえる。	【読】擬人法に着目し、ちいちゃんの恐怖感を読み深めることができる。（ワークシート・発言）
ま と め	5 本時の学習の振り返りをする。 ・擬人法が場面の臨場感・恐怖感を強める効果のあることを確認する。 ・本時の学習を振り返りながら第2場面を音読する。	・空襲警報の中を逃げるちいちゃんの怖いという気持ちを想像しながら音読させる。	
	6 次時のめあてをもつ。		